

【その他のオピオイド】

その他の麻薬性鎮痛薬

✓ ペチジン(オピスタン注35mg)

- フェニルピペリジン系の合成麻薬
- 鎮痛効果の強さはモルヒネの8分の1、投与量が多くなるとコデインより強い鎮痛効果が得られる
- 作用時間は2～4時間、3時間毎の投与が必要
- 腸管蠕動抑制作用や依存形成能はモルヒネより弱い、呼吸抑制作用や催吐作用は同程度である
- 抗コリン作動性作用もあり、アトロピンに類似した鎮痙作用を有する

麻薬拮抗性鎮痛薬

✓ ペンタゾシン

(ソセゴン注0.2mg、ペンタゾシン注30mg、ペルタゾン錠25mg)

- ベンゾモルファン誘導体、化学構造はモルヒネに類似する
- κ 受容体に対する活動性と μ 受容体に対する弱いあるいは部分作動活性を合わせ持つ(低用量投与の場合には、モルヒネの作用が増強され、高用量ではモルヒネに拮抗する)
- 麻薬性鎮痛薬の慢性投与により依存性が形成されている患者に用いると退薬症状が発現する可能性があるため、麻薬性鎮痛薬からのオピオイドローテーションには適さない
- 作用時間は2～4時間、3時間毎の投与が必要
- 錠剤には、水に溶解して注射しても効果が生じないようにナロキソンが配合されている

麻薬拮抗性鎮痛薬

✓ ブプレノルフィン(レペタン注0.2mg・坐剤0.2mg)

- デバインの誘導体、 μ 受容体の部分作動薬
- 鎮痛効果はモルヒネの約40倍で、 μ 受容体に対する親和性が高い
- 作用時間は6～9時間
- ナロキソンでは拮抗されない(受容体の結合能が高いため)
- 依存性や耐性の形成は軽度である
- 嘔気、嘔吐は高頻度で出現する

麻薬拮抗薬

✓ ナロキソン(塩酸ナロキソン注0.2mg)

- オキシモルフォンのN-アリル体として合成された麻薬拮抗薬である
- 単独では鎮痛効果などの薬理活性は示さないが麻薬性鎮痛薬の効果を強力に阻害する
- μ 受容体を最も強力に遮断するが、 δ や κ 受容体に対しても親和性を有す
- 麻薬性鎮痛薬やその他のアヘンアルカロイド類による急性毒性、特に呼吸抑制の治療に用いられる